

2016年11月29日

経済レポート

2016年10月の家計調査の結果

～10月の家計消費は減少するも、均して見ると横ばい圏～

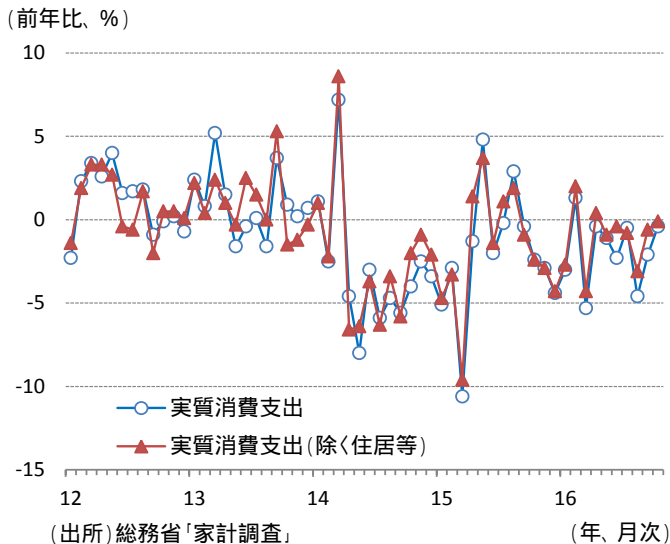
調査部 研究員 土志田るり子

10月の二人以上の世帯の実質消費支出は減少

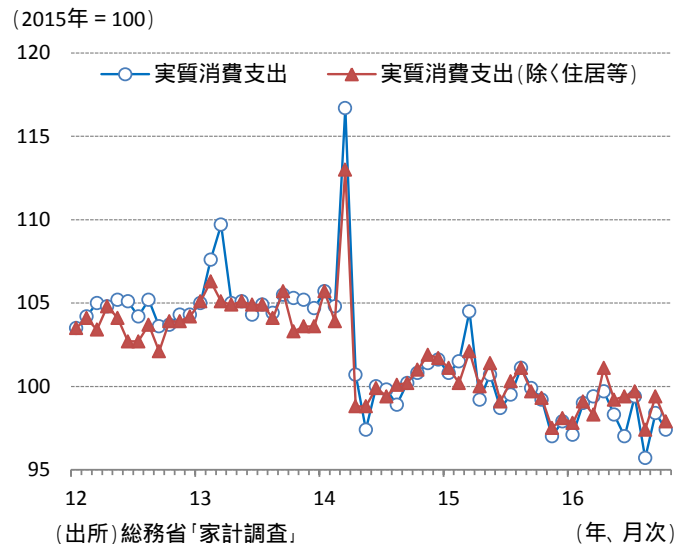
総務省「家計調査」によると、10月の二人以上の世帯の実質消費支出は前年比 - 0.4%と、8か月連続の減少となった。天候不順の続いた8月、9月と比べ、前年比のマイナス幅は縮小しているものの、均して見ると横ばい圏で推移している(図表1)。マイナスの寄与度が最も大きかった品目は食料(前年比 - 1.0%)で、特に、ほうれんそう(同 - 39.9%)やレタス(同 - 36.8%)が大きく減少した。生鮮野菜の価格は、前年比 + 15.9%(10月の消費者物価指数ベース)と上昇しており、なかでも消費が落ち込んだほうれんそう(同 + 47.3%)とレタス(同 + 54.5%)は高騰している。価格が上昇している品目を中心に、食品が買い控えられているようだ。また、月々の振れの大きい「住居」や「自動車等購入」を除いた実質消費支出(除く住居等)も、前年比 - 0.1%と小幅に減少した。

季節調整値では前月比 - 1.0%、除く住居等でも同 - 1.5%と減少した(図表2)。

図表1 . 実質消費支出の推移(前年比)



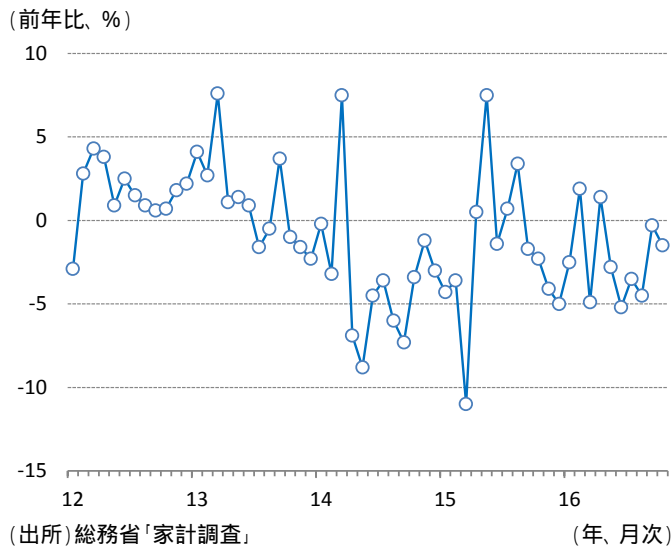
図表2 . 実質消費支出の推移(季節調整値)



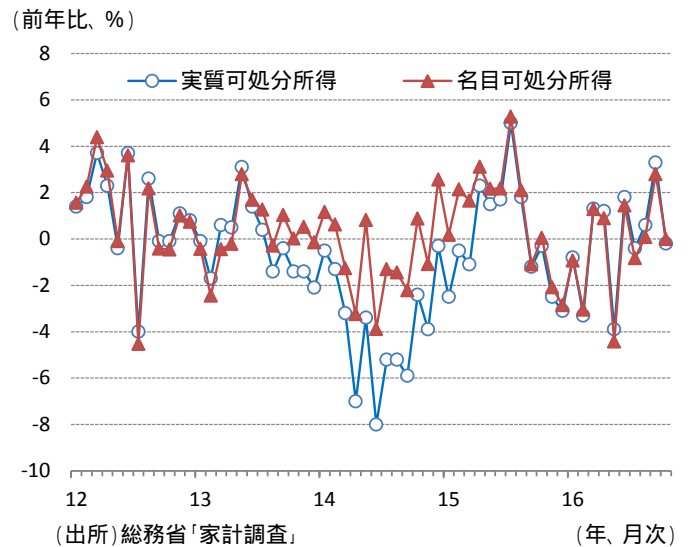
10月の勤労者世帯の実質消費支出も減少

二人以上の世帯のうち勤労者世帯について見ると、実質消費支出が前年比 - 1.5%と減少する一方(図表 3)、消費の原資となる可処分所得(実質)は前年比 - 0.2%と小幅の減少にとどまった(図表 4)。実質消費支出の減少幅が可処分所得の減少幅を上回ったことから、消費性向(季節調整値)は 70.9%と前月から 1.1%ポイント低下しており、家計の節約志向は引き続き強いとみられる。

図表 3. 勤労者世帯の実質消費支出(前年比)



図表 4 . 可処分所得の推移(前年比)



ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。